



みやぎ税務会計事務所通信

《 2021年4月 》



税務の話題

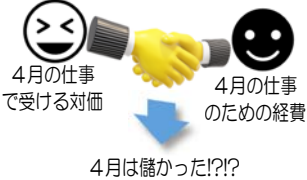
経営の際に意識したい 「発生主義」と「現金主義」について

「主義」という言葉から、とても難しい業界専門の話でしょ…と思われるかもしれませんが、全くそういったことはありません。

法人であれ、個人事業であれ、経営を、ご自身の事業を考える際には必ず意識しておきたい、経理処理の「考え方」のお話です。



文章を読みたくない方のために…【結論】「発生主義」で考えましょう！

「発生主義」って何？	売上・原価・費用を“発生した月”で考えること
どうして「発生主義」が必要ななの？	<p>その月の売上（仕事の対価）と その売上を得るために使った経費を 結びつけて、その月に利益が出たのか 出なかったのかを知るためです！</p> 

少し気になった方のために…【「発生主義」が必要な“ちょっと詳しい”理由】

「売上（仕事の対価）100」と、そのために使った「原価 50」を比べることで、「この仕事で” 50 儲かった！」と気づくことができますね。つまり、「今月いくら儲かったのか」を常に把握しながら経営が出来ることに繋がるのです。事業に関する税金は、区切った期間（法人なら事業年度、個人事業なら暦年）の収益と費用により計算します。「今月いくら儲かったのか」を把握することは、その期（年）の業績はもちろん、納税額もイメージしながら、対策を考えることができます。

更に気になった方のために…【もう一つの考え方】「現金主義」だとどうなの？

「現金主義」とは、お金が「入ってきた時に収入」「出ていった時に支出」と処理することです。この方法の場合、

3月の仕事の代金 50 が4月に入金された = 4月の売上 50 (ホントは3月…)

4月に依頼した仕事の代金 100 を4月に払った = 4月の原価 100 となり、経理上4月は50のマイナスになっていますが、

「4月の仕事が” プラスだったかマイナスだったか」は分かりません…。税金の計算は、お金の出入りではなく、区切った期間中に行った取引が基礎になります。現金主義で経理していると、決算時に蓋を開けてみたら「ウチ、こんな利益出た!?!?’ということにもなりかねないのです。

